

地域協議会が「住民代表機関」として発展するには何が必要か 「住民自治と合併問題を考える会」が記念講演とシンポ

「住民自治と合併問題を考える会」（佐藤忠治会長）の10周年記念講演とシンポジウムが10日、頸城区の希望館でありました。参加者は約80人と盛況でした。

私は同会の勉強会で講師を要請された経過もあることから来賓として招かれ挨拶、「全国的に注目されてきた上越市の地域自治組織だが、総合事務所産業建設グループの集約などによりまがり角にきている。住民の立場に立った活動で力を合わせよう」とのべました。

講演は岐阜大学の山崎仁明准教授です。同准教授は、「上越市の地域自治区の課題と未来」というテーマで地域協議会の成果や課題などについて語りました。現在の地域協議会について山崎准教授は、「良質な議論をしている」と評価した上で、代表制を実質的に確保していくためにも「住民組織」や町内会との連携が必要だと訴えました。



シンポジウムでは地域協議会委員をしている小出優子さん、君波豊さん、岡田竹一さん、市議会議員の中川幹太さん、旧山之山町職員だった中島良一さんがパネラー。山崎准教授がコーディネーター（調整役）を務め、「都市内分権と住民自治に

の将来」をテーマに話し合いました。

この中で、地域協議会の活動をめぐっては、「議論がきちんとできない理由はどこにあるか」「本当に住民代表になるにはどうしたらいいか」などを真剣に議論しました。パネラーからは、「行政が住民の意見をとりあげてこそ、自治が発展する」「市民がど真ん中ではなく、市長がど真ん中という感じが否めない。決定されていることが説明されている感じがした」などの発言がありました。

印象に残ったのは新潟日報「窓」への投稿でおなじみの中島良一さんのまとめ発言です。「もつと積極的に意見具申を」「自主審議に時間をかけて」「住民は当事者意識を持って自ら切り開く気概もて」「議会を刺激する存在になれ」「総合事務所には地域に精通した職員配置を」などの発言は参加者を励ますものでした。

絵本の読みかたりに感動

11日、高田の「高田世界館」（本町6丁目）で開かれた「あわゆき読みかたり」に参加して

きました。

会場は2階席もある映画館です。舞台のスクリーンには読んでいる絵本のページが映し出され、朗読している人の姿も見えました。

トランペットや太鼓の音も活用され、長新太の『おしやべりなたまごやき』など7つの作品をとっても楽しく聴くことができました。



【ボタンツル】漢字で「牡丹蔓」と書きます。キンポウゲ科のつる性半低木。花は白です。いまの時期、土手の草を白く覆っているのはこの花です。写真は大島区牛ヶ鼻にて撮影しました。

同期会で懐かしい人たちと再会

高校時代の同期会が11日、高田でありました。同じ学年だった者同士が集まって交流する魅力は、何と云っても懐かしい人たちと再会できることです。

会場では、東京での結婚式以来会っていない友人で、弁護士の一木剛太郎さん（旧青海町出身）が私をさがしに来てくれました。45年ぶりに再会したSさんは、「橋爪君が赤旗新聞の一面に出てきたのでびっくりしたのよ」と教えてくれました。市議に初当選した時の記事を読んでくれていたのです。同じ旧吉川町川谷出身で、卒業後知り合った小泉節子さんとも再会しました。2年ほど前、ふるさとに帰り、三和区でお寺の住職になっている龍池修さんにも会い、原発問題などについて語り合うことができました。

写真は一木さん、小泉さんとの記念写真です。



一〇年ほど前のこと、わが家の牛舎で異変が起きました。お母さん牛が自分で産んだ子どもなのに子育てを放棄してしまつたのです。おっぱいが飲めなくなった仔牛を守ろうと初乳でヨーグルトを作り、父と私が必死になって育てた思いがあります。

こういうことは動物の世界ではめつたにないことだと思つていたのですが、先日、大島区板山でツバメの世界でも似たようなことがあることを知りました。

この日は猛烈に暑い日でした。暑さのせいなのか、遠くの景色はかすんでいました。セミたちの鳴き声が車の中に入り込んできます。いつもは窓を開けて車を走らせる私ですが、この日は汗がにじみ出て、我慢できませんでした。クーラーのスイッチを入れ、ラムネを時どき飲みながら運転しました。

板山の章喜さん宅に立ち寄つたのは午後四時頃です。お連れ合いから冷たい麦茶をご馳走していただき、そろりと御いとましようと思つて外に出ようとしたら、章喜さんが仕事から戻つてこられました。

「おまんに見てもらいたいものがあるんだ」

そう言われ、案内してもらつた場所は車庫兼物置といった感じのところでした。バイクが一台あつて、その荷台を見て驚きました。荷台の上に四角いビニールのケースが載せてあり、何とその中に小さなツバメが四羽もいたのです。章喜さんによると、四羽とも車庫の屋根の内側にあつた巣から落ちてしまつたとか。そして困つたことに、親ツバメがそれを機に子ツバメたちの面倒をみなくなつてしまつたということです。

餌を与えられない子ツバメたちは鳴くばかりです。見かねた章喜さんは餌くれをはじめたのでした。餌はバツタです。バツタを捕まえるために「たも」まで購入したと言いますから、本腰が入っています。実際、バイクの近くにある虫かごには一〇匹前後のバツタが入っていました。

章喜さんは、どんなふうにも餌くれをするのかも見せてくださいました。虫かごから緑色のバツタを一匹取り出すと、ツバメの口に入る大きさにするため、ハサミで足などを切ります。そして、手でつかむと、一羽のツバメの口のそばへ持つて行きました。すると、子ツバメは黄色い口を大きく開けました。

私の目の前でバツタの足をもちつたツバメは口をもぐもぐさせますが、なかなか飲み込むことができません。章喜さんは、「ちよつと、でか過ぎたか」と言いながら、静かに引つ張りだし、小さくして再び口の中に入れました。そうすると、今度は飲みこみました。

「いやー、本業よりも忙しいんだわ」と言つて笑う章喜さんでしたが、ツバメの世話は餌くれにとどまりません。私に説明を続けながら割りばしを使って、小さな黒っぽいものをつまみ、捨てました。これはツバメの糞です。糞の片付けもあるし、へびの攻撃から身を守つてやらなければなりません。

さあ、ここまで書けば、あなたも、子ツバメたちがその後、どうなつたか知りたくなるでしょう。五日後、私は気になつて、章喜さんのところへ電話をしました。そうしたら、うれしいじゃありませんか、子ツバメたちはみんな巣立つたということです。それも電話のちよつと前です。「いやね、その後、ツバメたちを少し高いところへ移したんだわ。そしたら、親も餌をくれるようになってさ、飛び立つたんだ」電話なのに、章喜さんがニコニコしているのがはつきりとわかりました。

意見交換会の持ち方、周知方法などでも注文

市議会意見交換会の続報です。9日の中郷区の「はーとぴあ中郷」で行われた会についても報告します。この会場も先日の文化会館と同じく、参加者数は少なかったものの、

発言は活発でした。「小さくてもいいから就職できる企業誘致をしてもraitai。またスポーツ指導できる教員の増員を」「北陸新幹線の開業後、相互乗り入れ、ダイヤ編成では、なじんでいる区間で不便を与えないように」「自殺率が新潟県は2番目だ。診療所を設置して、そういう相談もできるようにしてもらえないか」「LED照明について、上越市には補助制度がない。市独自として助成制度作るべきだ」などの声が出ました。これらの意見や要望については市議会の課題調整会議で対応策を決めます。

この日は、意見交換会のもち方、周知方法についても注文が出ました。「もっとテーマを絞つた中で意見を集約してやっていかないと突っ込んだ意見が出てこない」「町内

会関係者がだれも来ていない。地域協議会委員ばかりだ。町内会（宛て案内文に）に2、3人お願いしたいくらい書いてもいいのではないかな」などの声です。議会側からは、「テーマ設定については検討してみたい」などの答弁をしました。

他会場でも、意見交換会のあり方について検討すべきとの声が出ているようです。議会と市民が実りのある意見交換をするにはどうしたらいいのか。テーマ設定、意見交換会の長さ、議員の発言の在り方について真剣な検討が求められています。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	8月7日(水)	8月14日(水)
上越南消防署	0.033	0.033
上越北消防署	0.050	0.047
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.037	0.040
頸南消防署	0.040	0.040
東頸消防署	0.047	0.043
高土分遣所	0.050	0.047
名立分遣所	0.047	0.050

